



関台だより

回顧・運動会及び学習発表会一心を一つにしてやり切った!!

校長 相原 雄三

「運動会の朝。ぼくは、ドキドキしながら、フェアキャストからの連絡を待っていた。なぜなら、今年の運動会は台風14号の影響で、土曜日の運動会ができなかったからだ。日曜の天気予報を見ても晴れの予報はなく、ぼくたちの演技をお家の人に披露できるかとても心配していた。しかし、7時30分頃になると、雨もだんだん小さくなっていき、運動会は決行することになった。ぼくは、ワクワクしながら学校に向かった。運動会の朝は、いつもよりすがすがしく感じた。」

これは、運動会後に、「今こそ、団結の時!」という題で書いた6年生の作文の冒頭部分。そして、「みんなが心一つにした運動会。まさに『団結』というテーマにふさわしい運動会だったとぼくは思っている。」と、力強く締めくくっています。

開校95周年の記念行事の一つとして位置付けた10月10日(土)の運動会は、台風14号と秋雨前線の影響で前日の昼過ぎに中止と判断し、翌日の11日(日)の実施に願いを込めました。天気予報で台風の進路や雨雲の動き、降雨の時間帯の予測を見るたびに、翌日の実施についても非常に判断に迷う状況でした。しかし、「活動・活躍」を2学期のスローガンに掲げ、先の作文にあるような、お家の人や他学年の友達に見せることを励みに頑張ってきた子供たちの思いを考えると、当日の朝、実施か否かを判断する時刻ぎりぎりまで天候の回復を待つことにしました。

10日(土)深夜、日をまたぐ頃、校庭に出て天を仰ぐと、関台小の上空では風はあるものの雨がやみ始めました。グラウンドに手を当ててコンディションを見ると、「このまま朝までまとまった雨が降らなければ実施ができる」と、その時点で判断し、朝を迎えました。そして11日(日)の早朝。時折、小雨がパラつくときがありましたが、「実施」することを決め、午前7時6分に実施することを伝えるフェアキャストを家庭に配信しました。まさに、「至誠通天」「開校95周年の奇跡」。関台小の子供たちと先生たちが、コロナ禍でも運動会という「活動・活躍」の場で、「輝きたい」「輝かせたい」と心一つにして真摯に練習に取り組んできた思いが天に通じ、運動会の実施という願いが叶ったのだと思います。

迎えた学習発表会。この学校行事に込められている「ねらい」の一つは、次の学年に進級したら自分たちはどのようなことに取り組むのかという見通しや期待感をもたせることにあります。

1年生は、朗読・暗唱で元気よく一つのストーリーを創り上げる姿を披露します。2年生は、透き通った歌声と鍵盤ハーモニカの技術を披露します。初めて劇に挑戦する3年生は、役になりきって大きな声と演技で躍動する姿を披露します。4年生は、自分たちで調べたことをもとに台本を作り、相手に分かりやすいようにプレゼンをするという総合的な学びの姿を披露します。5年生は、心を込めたハーモニートリコーダーをはじめとする様々な楽器を使いこなす姿を披露します。そして、最後の学習発表会となる6年生は、これまで培ってきた表現力の集大成として、場面ごとの臨場感を出しながら演技する姿を披露します。子供たちは、他学年の発表を参観することを通して、未来の自分の姿を思い描き、それを目標にして学校生活を送っていきます。

そして、安全面については、今できる最大限の工夫をしました。まず、各学年の発表時間を例年よりも短くしました。また、飛沫防止のために、歌唱ではマスクやバンダナを着用しました。鍵盤ハーモニカの吹奏では短いノズルを付け、リコーダーでは「窓」の部分にカバーを付けました。朗読や演技ではマウスシールドを着用するとともに、正面と左右に舞台を増設し、子供同士が同一方向を向き、間隔を少しでも広くとれるようにしました。発表の時間は、例年よりも短くなりましたが、開校95周年を意識した内容やフレーズが随所に見られ、各学年とも濃厚で心温まる発表になったと思います。

コロナ禍であっても、工夫しながら“一致団結”を合い言葉に、心一つにして運動会と学習発表会に取り組むことで、もしかすると、これまで以上に子供たち一人一人の心に熱く刻まれた思い出深い学校行事になったかもしれません。

これもひとえに、子供の健康面に留意しながら、毎日、元気に学校に送り出してくださる保護者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。今年度も、あと残り4ヵ月ほどとなりますが、引き続き、保護者の皆様のご理解とご協力を頂きながら、“前進”していきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

1年生担任 高木 文子

「天までとどけ、一、二、三！」
 国語「くじらぐも」で、子供たちが一番好きな場面です。学習発表会では、跳んでいましたが、元々は台本になかった動きです。練習当初から全員が自然に跳び始め、くじらぐもと本当に旅に出かけたいという、子供たちの気持ちから生まれました。
 群読「素敵な関台95周年バージョン」では、子供たちの何気ない会話や、楽しそうに取り組んでいる日常を取り入れて台本を作りました。
 毎日練習に取り組んできた子供たちの頑張りは、めあて「大きな声で、見ている人にみんなの気持ちを届けよう」を十分達成できたと思います。
 展示「ちぎってはって」では、個性あふれる素敵な作品が並びました。友達や他学年の作品からたくさんの刺激を受け、感想を伝え合っている姿が多く見られました。



2年生担任 武井 智哉

2年生は、歌「きみとぼくの間に」「Jump!」、合奏「レッツダンスきらきら星」を演奏しました。歌の練習では、出だしの言葉や曲の意味を考えながら歌うことを意識しており、子供たちも工夫しながら取り組んでいました。合奏では、一つの曲でも様々な演奏の仕方があり、それぞれのリズムに合わせて表現する楽しさを味わいながら演奏することを目標にして取り組みました。本番では、今までで一番良い演奏をすることができ、終わった後の子供たちの表情は自信に溢れていました。
 また、作品展示では、個性豊かな作品に仕上げることができました。他学年の作品を鑑賞した際には、自分たちも「これ、作りたい!」と興味をもっていて、来年の作品のイメージをふくらませていた一面も見られました。



3年生担任 守友 頌子

3年生は初めての劇に挑戦しました。子供たちは、毎時、友達と協力し合いながら練習に取り組むことができました。
 初めはなかなか大きな声が出なかったり、どう体を動かしたらいいかわからなかったりして、手探りだった演技も、練習を重ねるごとに役になりきって演じることが上手になり、お互いの演技から刺激を受け、切磋琢磨していく姿に成長を感じました。
 本番では、堂々と自分の役を演じ切り、「力を出しきることができた」と大きな達成感を味わえたように思っています。みんなの力を合わせるこの楽しさや喜びを、これからも忘れないでほしいと願っています。



4年生担任 矢野 篤彦

「小さな子から大人まで、観ている人が楽しめて、意識を変えられるような番組をつくろう」というめあてを立て、場面ごとのグループに分かれて情報番組制作に取り組んだ4年生。約1か月間の調査・取材期間を経て、SDGsについてそれぞれが調べた情報を持ち寄り、台本とスライド資料のレイアウト作成を自分たちで行いました。
 よりよい番組を放送するために、時には意見をぶつけ合い、課題が浮かび上がる度に、リーダーが中心となって自分たちで課題解決していく姿には、「よい番組をつくりたい」という熱い思いを感じると同時に、これからの関台小を引っ張っていく高学年としての頼もしさを感じることができました。
 運動会と学習発表会を通して、逞しく成長を遂げた4年生の今後の活躍に期待しています。



5年生担任 竹内 詩織

5年生は、合唱「地球星歌～笑顔のために～」と合奏「ワタリドリ」の2曲を披露しました。
 子供たちは、合唱ができることをとても喜んでいました。バランスの良い合唱を目指して、自分たちで「昨日より全体的に声小さかったと思う」「これ以上出せないくらい声が出せたと思う」と振り返りながら練習に取り組み、徐々に美しい歌声を響かせることができるようになりました。
 合奏では、休み時間も使って意欲的に練習に取り組みました。楽譜を覚えたあとも、合奏すると、指揮より速いテンポになってしまうという課題がありました。しかし、何度も練習をしてその課題を克服し、本番では息の合った演奏を行うことができました。
 合唱・合奏だけではなく、目的意識をもって練習したり、準備や後片付けを責任もって行ったりする姿は高学年らしい姿でした。この経験を今後の学校生活に生かしてほしいと思います。



6年生担任 落合 謙次

小学校最後の学習発表会。6年生は「星のしずくと影の国」を演じました。
 小学校生活最後の学習発表会として、一人一人が台詞や動きを見ている人に伝わるように堂々と演じることを目標にしました。衣装や小道具作りから、グループごとにアイデアを出し合って練習を進めるとともに、学年活動として来てくださった外部講師の伊澤さんからも目線や動き、声の出し方などのアドバイスをしていたいただき、練習を重ねました。今年度は、児童鑑賞日に2回、保護者鑑賞日に1回と合わせて3回の公演を行い、昨年度までとは違う形態でしたが、最後まで演じきりました。
 残りの学校生活でも、一人一人の個性を大切にしながら、この学年の仲間たちと過ごせてよかったという思いをもちながら卒業できるようにサポートしていきたいと思えます。



<2学期の終業式の日の時程と下校時刻>

※12月25日(金)は、2学期の終業式です。4時間授業(給食なし)で、下校時刻は12時15分頃の予定です。